

ヒトパピローマウイルス感染症予防接種の説明書

筋肉内注射

ヒトパピローマウイルス感染症とは	ヒトパピローマウイルス (HPV) に感染しても、多くの場合はウイルスが消失しますが、一部の人で前がん病変を経て、子宮頸がんに至ることがあります。子宮頸がんの 50～70%は、HPV16、18 型が原因とされています。子宮頸がん罹患者は 20 代から増加し、40 代でピークを迎え、年間約 11,000 人が発症し、年間約 2,900 人が死亡する重大な疾患です。ワクチンで HPV 感染を防ぐとともに、前がん病変を予防する効果が期待されています。	
ワクチンの種類	シルガード 9 (9 価 HPV ワクチン)	
ワクチンの効果	HPV 6 型、11 型、16 型、18 型、31 型、33 型、45 型、52 型、58 型の 9 つの型のウイルス感染を防ぐことができ、子宮頸がんとその前がん病変、外陰上皮内腫瘍、膣上皮内腫瘍、尖圭コンジローマなどの発症を予防します。	
標準的な接種回数・間隔	【2回接種の場合】 1 回目が 15 歳未満に限る ○ 6 か月以上の間隔をあけて 2 回接種	【3回接種の場合】 ○ 1 回目から 2 か月以上の間隔をあけて 2 回目を接種 ○ 1 回目から 6 か月以上の間隔をあけて 3 回目を接種
ワクチンの副反応	発生頻度	*接種した部位の症状
	50%以上	疼痛*
	10～50%未満	腫脹*、紅斑*、頭痛
	1～10%未満	浮動性めまい、悪心、下痢、そう痒感*、発熱、疲労、内出血*など
	1%未満	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血*、血腫*、倦怠感、硬結*など
	頻度不明	感覚鈍麻、失神、四肢痛など
	※頻度は低いですが、重い副反応としてアナフィラキシー、ギラン・バレー症候群、急性散在性脳脊髄炎が報告されています。 予防接種を受けたあと、副反応が起こった場合は医師の診察・治療を必ず受けてください。	
定期接種対象者	小学校 6 年生から高校 1 年生相当の女子	
受けることができない人	○明らかに発熱のある人 (37.5℃以上の場合) ○重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人 ○その日受ける予防接種に含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがある人 ○妊娠中もしくは妊娠している可能性のある人 ○医師が不相当と判断した人	
予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人	○血小板が少ない人や出血しやすい人 ○心臓病、肝臓病、腎臓病、血液の病気などの治療を受けている人 ○以前に予防接種を受けたとき、2 日以内に発熱、発しん、じんましんなどアレルギーを思わす異常がみられた人 ○今までにけいれんを起こしたことがある人 ○過去に免疫不全の診断がなされた人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人 ○予防接種に含まれる成分にアレルギーがある人 ○発育で経過観察といわれている人	

裏面もご覧ください

ワクチン接種後の注意	<ul style="list-style-type: none">○接種後に、めまいやふらつき、失神、重いアレルギー症状が起こることがあるため、接種後はすぐに帰宅せず、30分間程度は座って様子を見てください。○接種後は、接種部位を軽く抑える程度にし、揉まないようにして清潔を保ちましょう。○当日は過度な運動を控えましょう。○接種当日の入浴は問題ありませんが、注射部位を強くこすことは避けてください。○接種部位以外にも激しい疼痛、しびれ、脱力感等があらわれ、長時間症状が持続する例があります。異常が認められた場合には、医療機関を受診しましょう。○このワクチンとほかのワクチンの同時接種を希望する場合は、医師にご相談ください。
<h2>～20歳を過ぎたら、子宮がん検診を受けましょう～</h2>	

奥州市

《厚生労働省ホームページ》

